

令和5年 第8回文教厚生常任委員会会議録

令和5年6月13日

○事 件

所管課報告事項

- (1) 令和4年度決算について（熊石国保病院）
- (2) 令和4年度決算について（八雲総合病院）
- (3) 生活応援商品券発行事業の事業実績について（住民生活課）

所管事務調査

- (1) 「文化ホール建設請願書」の審査について

協議事項

- (1) 常任委員会の視察調査について

○出席委員（7名）

委員長	赤 井 睦 美 君	副委員長	佐 藤 智 子 君
	大久保 建 一 君		齋 藤 實 君
	能登谷 正 人 君		関 口 正 博 君
	黒 島 竹 満 君		倉 地 清 子 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（3名）

議長	千 葉 隆 君	三 澤 公 雄 君
	牧 野 仁 君	

○出席説明員（8名）

熊石国保病院事務長	福 原 光 一 君	熊石国保病院事務次長	小 池 克 明 君
総合病院事務長	竹 内 伸 大 君	庶務課長	長谷川 信 義 君
医事課長	加 藤 貴 久 君	地域医療連携課長	佐々木 裕 一 君
住民生活課長	石 黒 陽 子 君	住民生活課長補佐	武 田 利 恵 君

○出席事務局職員

事務局長	三 澤 聡 君	事務局次長	成 田 真 介 君
------	---------	-------	-----------

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） 少し早いんですけども、始めさせていただきます。

◎ 所管課報告事項

【熊石国保病院職員入室】

○委員長（赤井睦美君） それでは早速、熊石国保病院よりご報告よろしくお願いたします。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、国保病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 国保病院事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） おはようございます。国保病院の令和4年度決算について説明をさせていただきます。資料1をご覧ください。

はじめに表上段の患者数です。①入院患者数、延べ患者数で1万3,333人、一日平均36.5人、予算比較は、延べ患者数7,472人、一日平均で20.5人の減、前年度比較では、延べ患者数4,402人、一日平均で12.1人の減となりました。病床利用率は36.9%、前年度比較12.2ポイントの減であります。

②外来患者数は1万4,499人、一日平均59.7人、当初予算比較は、延べ患者数で6,642人、一日平均27.3人の減、前年度比較では、1,092人、一日平均4.7人の減となりました。

③入院収益と④外来収益を併せた⑤小計は5億2,752万2千円、予算比較3億2,176万6千円の減となりました。

⑥その他医業収益は、救急医療の確保に対する一般会計繰入金や、健康診断、各種予防接種等の収入で6,025万4千円、前年度比較818万5千円の減となっております。減となった主な要因につきましては、一般会計繰入金の実績算定による減、および公衆衛生活動収益の減によるものであります。

⑦医業外収益は、不採算地区病院の運営に対する一般会計繰入金、補助金等であり、前年度比較5,929万2千円の増となっております。増となった主な要因につきましては、新型コロナウイルス関連の国及び北海道からの補助金収入によるものです。

⑧特別利益2,261万1千円は、過年度損益修正益のほか、累積欠損金の改善を図る一般会計繰入金の基準外繰入金であります。Aの収益総計で8億7,983万3千円、予算比較1億7,829万5千円の減となりました。

続いて費用の部です。⑨給与費は、本年1月に内科常勤医師を確保したところですが、看護師など予定していた人員を確保できなかったことから4億6,970万8千円となり、予算比較1億1,484万7千円の減となりました。

⑩材料費は医療用薬品や診療材料等で、2億399万8千円で、予算比較7,189万3千円の減、前年度比較1,539万1千円の減となりました。

⑩経費は消耗品や委託料等であり、当初予算より 1,992 万 5 千円減の 1 億 2,814 万 4 千円、⑮医業外費用は、企業債支払い利息や消費税関係の支出であり、3,665 万円は前年度比較 52 万 4 千円の減、⑯特別損失は、診療報酬査定減であり、229 万 1 千円の決算であります。B 費用総計で 8 億 7,658 万 2 千円、当初予算対比で 2 億 74 万 2 千円の減、前年度比較 586 万 5 千円の減となりました。C 差引収支では 325 万 1 千円の純利益が生じ、黒字決算となりました。

全体を通しまして、本業であります医業収益の減少が大きく、これは、入院・外来収益である料金収入の減少によるところであり、新型コロナウイルス感染症の流行に大きく影響を受けた 1 年でありました。

入院につきましては、北海道の指定を受け、新型コロナウイルス感染症に対応する感染病床を空床のまま確保していることから、当初より患者数の減少を見込んでいたところがありますが、昨年 8 月に新型コロナウイルス感染症の院内クラスターが発生したことから、新規入院患者数の調整を継続していることが大きく影響したところでもあります。

外来につきましても、院内クラスターの発生で外来診療を中止せざるを得ない状況もあったことなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、院内感染防止対策の取り組みなどから、患者数増を見込めない状況が続いたところでもあります。

このようなことから、現金収入が大きく減少したところですが、新型コロナウイルス感染症に関連した国・北海道の補助金収入が増となったことから、収益的収支決算を安定させることができたことと捉えております。しかしながら、経営分析においては、補助金収入に依存し、経常収支の悪化に現れているように大変厳しい決算状況と認識しているところでもあります。

続いて、表下段の現金勘定について説明いたします。D 流動資産は、比較的短期間のうちに現金に換えることができる資産であり、現金預金のほか、国保・社保の診療報酬等の未収金、薬品の貯蔵品で 3 億 8,479 万円となりました

E 流動負債は 1 年以内に償還しなければならない債務であり、報酬や材料費、経費の未払金や、賞与と法定福利費の引当金等であり、1 億 185 万 1 千円であります。

表下から 2 段目の G 内部留保資金は 2 億 8,293 万 9 千円で、前年度より 1,422 万 6 千円の軍資金増となりました。

以上で簡単ではございますが、国保病院、令和 4 年度決算の説明といたします。よろしくお願いたします。

○委員長（赤井睦美君） このことについて、質問・ご意見ありませんか。

○委員（斎藤 實君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） コロナ禍といわれたらそれに尽きるんだけど、やはり入院患者外来、去年は結構規制した部分があるんですね。やっぱり規制はあれですか、コロナ対策のための規制ということの考え方でよろしいですか。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 患者の受診の規制または一時的に診療を中止したということがございましたので、これについては委員がおっしゃるとおり、コロナウイルス感染症の対策という一環として規制をかけたということがございます。

外来診療の予約制の導入、または待合室のソーシャルディスタンスを保つための受け入れの制限ですとか、そういったところも長い時間、長時間にわたって院内に滞在することがないように、そういったことも、観点も含めてコロナ対策の院内感染防止対策の一環として取り組みを行ったところでございます。

○委員（斎藤 實君） あまりにも落ち込みが大きすぎるものだから、収益だってこれ黙ってみたら1億くらいは落ちちゃってるんだよね。ただ、これ決算だからあれなんですけれども、今年に入ってから患者さんの対応はどうなんですか。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 4月以降の患者数については、大きく改善にはなってございません。まだ流行というかたちではないですが、陽性患者が出ているという状況も踏まえて、5月8日の5類に移行したあとも新型コロナウイルスの特性が変わることのないという観点から、感染対策を緩めることなく、このまま継続していきましょうということで院内会議、または感染事務で方針を打ち出しているの、まだしばらく、当面の間はコロナ感染症の対策として、こういった取り組みを継続していくところですので、ご理解をお願いいたします。

○委員（斎藤 實君） 理解はしてるんですけども、あまりにも。ただ、気を付けてほしいのは、去年規制したりコロナ禍の対応で病院自体の経営というのかな、運営自体に支障をきたさないようにって考え方があるだろうけれども、患者さんはある程度規制されると、それぞれ別な病院見つけて、出ていくわけだから。結構僕らも函館行ってる人も聞いていますね、その辺がちょっと今度5年度呼び込むまでといたら、相当努力しないと大変かなって感じは受けますがね。

○委員長（赤井睦美君） 答弁はよろしいですか。

○委員（斎藤 實君） 頑張ってるってやってもらうしかないのかね。けど新たな取り組みというのは、患者さんを呼び込むための取り組みは、別に今のところこうするか、ああするかということはないんですよ。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 5年度4月以降、このコロナの5類への意向も踏まえてですね、まずは診療体制を充実させようって取り組みを再開しております。

まずは医師3名体制を目指して、医師招聘活動を再開し、より積極的な活動をさせていただいております。5月の中旬に副町長同行の元、東京へ出向いて北海道の東京事務所、または北海道全国自治体病院協議会にも声がけをして、現状について説明して、医師招聘をお願いしているところです。

今後も医師の充実、また看護部スタッフの充実も含めてですね、そういった診療体制の充実をまず目指して医療サービス、今よりもさらに充実したものに組み込んでいきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○委員（斎藤 實君） 委員長、もう一つ。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 北大、これまでずっと札医大、そっちとも連携とってたけれども、今はどういう状態ですか。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 数年前に土井院長先生っていう先生が札医大の内科出身で、その際は医局との付き合いといいますか、いろいろ協力体制を取っていたんですが、今はなかなかそういった体制も取れなくて。医局の方もなかなか人員不足で、応援の方までに手が回らないって回答をいただいている、なかなか医局との連携ができていない状況ですので、なるべく医局には働きかけしてるんですが、当院としてはフリーで動いている先生方や、当院に勤務されたことのある実績のある先生ですとか、そういったところを積極的に声がけして招聘活動を進めているところでございます。

○委員（斎藤 實君） 委員長。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 北海道の札医大でもいいから、大事にお付き合いしていかないと。やはり連携だけはきちんととってほしいと思いますよ。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） すみません、一点付け加えさせていただくと、うちの藤戸院長が旭川医科大学の出身で、その医局とだけではないですが、同期や先輩後輩の人づて、そういった繋がりを大事にされている先生ですので、お声掛けさせていただいております。まだ具体化しておりませんがそういった活動も今継続してございます。以上です。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） ごめんなさい、聞き漏らしていたのかもしれませんが、入院の病床使用率は36.9パーセントってことですよね。平均で使用病床数っていくつになるんですか、それってほしい。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 許可病床が99床で計算しているので、病床利用率36.9パーセント、一日平均36人ほど、ほぼ同数という捉え方です。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 4年度のマックスでどれくらいなんですか。

- 国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。
- 委員長（赤井睦美君） 事務長。
- 国保病院事務長（福原光一君） マックスで 50 人ほどの患者を受け入れました。また、それ以前は、61 人までマックスで患者を受け入れている実績がございます。
- 委員（大久保健一君） それ以前というのは。
- 国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。
- 委員長（赤井睦美君） 事務長。
- 国保病院事務長（福原光一君） 令和 3 年度の実績でございます。
- 委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。
- 委員（関口正博君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 関口委員。
- 委員（関口正博君） 一つちょっと教えてください。

8 番の特別利益の中の説明の中で、累積欠損に対する基準内の繰入という言葉がありました。僕もよく分からないので、ちょっと中身教えていただけますか。

- 国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。
- 委員長（赤井睦美君） 事務長。
- 国保病院事務長（福原光一君） 特別利益の中身につきましては、当初、これは予定してございませんでした。ほかの項目の一般会計からの基準内の繰入金、これをいただいているところですが、実績で基準内の繰入金減額になります。実績に合わせて繰入金の数値が確定するんですが、それ以外、既に繰入いただいているものを、基準外として特別利益に振り替えて累積欠損金の改善に充てているという振替をしております。
- 委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。
- 議長（千葉 隆君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 千葉議長。

○議長（千葉 隆君） 要するに、医業外収益で、道からの補助金 6 千万円弱くらいなのか分からないけれども、前年比で 6 千万くらい弱、医業外収益が上がっている部分がありますから、そういった部分がなければ現金が 6 千万くらいいくわけだから。1 億 9 千万くらいしか現金がないということ言えば、要するに 3 年くらいでこの傾向が続くと、なかなか現金がなくなるわけで、そうすると運用することもゆるくないというか。1 億円切ればゆるくないと思うんだ、だいたいこの規模の国保病院で。

だから、ある程度、今年同じような状況で、道の補助金が来ないということになると、次の年、もう少し一般会計から繰り入れる状況を作っていくかないと、一科にしないとないという状況も生まれてくるので、だからある程度この辺の対策というか、部分考えていかないと。実際はそのときの入院患者や入院数もあるんだけど、それも鑑みながらも、やっぱり根本的な部分作っていくかないと、ちょっと厳しいなっていうのが見えてきたというか。実際、コロナの部分で入院患者が減った分、道からの補助金が入るって仕組みだったから、なんとかこうやってきたんだけど、コロナで入院患者が減ると人口減の推移というのを比較したら、やっぱりある程度 2、3 年の経過を見たら同じくらいの減数というか出てくると思うので、その辺の収支バランスのとり方はこの 1 年ちゃんと見ていかないと、大変かなと。

まして新しい病院を建てたあとにその辺の建設費の負担も出てくるわけだから、逆にこの状況だったらまともにその建設費の負担が数年後償還のときに現れてくるから、それまでになんとか償還の分、返す利益を出せるようなとか、あまり減収にならないようなとか、そっちのほうに組み立てていかないと、実際は難しいと感じているんですが、その辺、償還も含めてどういうふうに感じていますか。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 今、千葉議長からご指摘のあったとおりに思っております。患者数については、今おっしゃったとおり、コロナの影響もありますが、地域人口の減少はこのまま続くと、もちろん思います。それで、減少して患者数も減っていくという減少傾向は続いて、その中でいかに現金収入を確保していくかが大きな課題です。議長今おっしゃったとおり、補助金収入は、今年、病床の空床の補助金収入は1億3千万円ほど入っています。令和5年度は9月末で補助金の対象が終わります。そうすると、単価自体も下がっておりますので、1億3千万のおおよそ4分の1程度の補助金収入しか見込めない状況です。ですので、4月入る前から院長と経営的な話をしています。

まず、私どもの病院は、診療報酬で定めている入院基本料が、最も低い入院基本料を算定しています。これはうちの病院の地域特性もあって、長期入院者が多いということから、一番低い入院基本料を算定せざるを得ない状況が続いていますが、ここを改善する方法で今考えています。何より、まず新たな診療報酬を算定するために必要なのは、医師の数を3名、医療法で定める医師が足りないって病院がペナルティを取り除くのが先決で、まずは医師の数を、常勤3名体制を確保した上で、新たな診療報酬の加算、そういったところに手をつける計画です。

また、度々経営改善のところでお話させていただいておりますが、リハビリテーションの機能の導入というところも、今回の診療報酬の増額、そういったことを見込んで計画してございます。

また、こういったことをまとめたものを、病院の経営改革プランというのを、今作成している最中です。9月以降に、日にちは短い状況ですが、まず医師をしっかりと確保しつつ、新たな診療報酬の加算が取れる体制を整えて、今の入院基本料を目指して、一人一日当たりの入院単価、日当円を向上させるべく、収入の改善を図っていきたいと考えております。

また、支出については、今と同じ規模、もしくはある程度の人員を確保した中で、給与費が増えることも想定されますが、今を基本に収入をどこまで上げられるかは、しっかりと計画してプランを作成しているところですので、またこれの作成後、委員会のほうに説明してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 今の、ちょっと話を聞いてお伺いしたいんですが、なかなか医師の3名体制は、現実的には厳しい部分は当然あるだろうと思いますし、近隣の人口、熊石ばかりではなくて、地域自体の人口の落ち込みも激しいという部分においては、また違ったアプ

ローチからの病院の在り方を模索するというんですかね。たとえば、先ほど予防という言葉もありましたが、これは直接、病院収益と関係ないんだろけれども、たとえば地域において、そういう活動を充実させる、熊石の健康寿命を延ばしていくなど、そのような取り組みを病院が中心となって。これは町も当然関わりながらやっていかなきゃならないんだろけれども、そういうアプローチの仕方、これは直接医業には、収益を上げるというようなことにはならないにしても、地域にとっての大事な病院ですので、そういう守り方は八雲側の人間も含め収益ばかりに注視するというのもなかなか厳しいんだろというふうにも思います。そんなことばかり甘いことも言ってもらえないんだろけれども、でもそういう役割も一つ考えながらやっていただきたいというのと、あと、やっぱり医師が少ないという部分においては、総合病院で聞こうと思ったんだけど、オンライン診療や電話診療、そんなもので対応していただくとか、この間も喋りましたが、ITを屈指しながら、減っていく人員に対して対応していく。それで熊石の町民の方々にも、たとえば熊石や高齢者の方々にタブレット持たせてオンライン診療なんていうのも、意外にハードルそんなに高くないのかなって。八雲なら対象人数がいっぱいいるので、そういう診察の在り方を模索するなど、熊石ならではの診療の在り方も考えていただきたいと思います。もう建つことは決まっていますから、それに対する借金も払っていかないとないし、でも当たり前のことじゃ大変なんだろうな、熊石ならではの生き残り方は考えていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 関口委員のご提案でいただいたとおりでと思います。

まず保健の予防に関しては、今も熊石総合支所の保健師さんや、ケアマネさんや、そういったところと協力させていただいて活動しています。予防接種ももちろんですし、ケアマネの月一の会議にも参加させていただいて、医療と保健予防、また介護といったところとも連携して進めているところですが、なかなかそこにドクターが直接介入をするのは難しい状況です。やはりそこは医師を充実させて、2名のところ3名、負担を減らしながら地域の保健医療、要望活動も、公衆衛生の活動もしっかりと考えたいと思います。

また、先月の委員会でもお話ししました、医療DXの遠隔診療、私もまだ勉強中ですが、先進地では、地域の会館にそこに患者様を集めて、ただ遠隔診療ですからタブレットを操作するのはなかなか難しい方も多いので、そこに看護師を一人会館に常駐させて、看護師の操作で、ドクターと患者様の遠隔診療を行っているという事例があったので、その辺、私も先進地視察も含めて勉強をこれから続けたいと、なかなか有効な方法かなというふうに考えております。地域の会館に患者様を集めて、そこに看護師が一人いて、操作。また、これじゃあ病院に直接行ったほうがいいって助言ができる看護師がそこにいて、時間時間で違うところに移りながら、タブレット使いながら遠隔診療も、今後新しい病院でも医療DXを屈指して、少ない人数でどういうふうに地域の方々に協力していくかも、しっかりと考えていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 私も、この今の関口議員さんが言ってくれた遠隔の診療を言いたかったところなんです、その前にドクターの確保というので診療報酬の単価を、入院単価を上げるとかって繋がっていくから、それを確保することに務めてくださいというのが大事なことだと思いますが、たとえば入院単価が、単純に医師を確保したらどれくらい大きいんですか。熊石で利用している入院の数と比較しても、今後減っていくことに合わせて見ても、単価が上がるというのは、どれだけ大きいのかかわったら教えてほしいんですが。

○国保病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○国保病院事務長（福原光一君） 医師3名体制を確保して、リハビリテーション機能をしっかりと充実させたときに、当院としてシミュレーションしているのは、今現在、一人一日当たりの入院の日当円が、2万円ほどになります。それを、2万5千円以上を目指すというのを考えています。

もちろん、患者数がどんどん減少傾向にある中で、その単価をどういうふうにするか、もちろんいたずらに上げるのではなくて、しっかりと必要な医療を提供しつつ、それに見合う診療報酬をいただくってかたちで単価の上昇を考えていますので、よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

なければこれで終わります。ありがとうございました。

【熊石国保病院職員退室】

【八雲総合病院職員入室】

○委員長（赤井睦美君） お疲れ様です。それでは総合病院より、ご報告よろしく願いいたします。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。

○委員長（赤井睦美君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 令和4年度決算について説明いたします。

資料1をご覧ください。表上段、①の患者数についてです。入院患者数ですが、延べ患者数7万4,818人、予算比較では、2万3,367人の減となり、前年度比較では、1万316人の減となっております。

次に、②の外来患者数ですが、延べ患者数13万7,876人、予算比較では、4,133人の減となり、前年度比較では、232人の減となっております。

次に、③の入院収益及び④の外来収益を合算した⑤診療収益は、36億4,142万円で、予算比較で7億204万4千円の減となり、前年度比較では、2億4,395万1千円の減となっております。

収益に関する特徴的事項について、でございますが、入院収益の大幅な減少につきましては、循環器内科医師の退職による減収に加え、新型コロナウイルス感染症に係る院内クラスターが複数回発生しており、また、職員が相次いで感染した時期もあり、一定期間、診療制限を実施したことによる減収が要因の一つであります。

また、⑦医業外収益では、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症治療の拠点に指定されたことにより、国及び北海道の当該感染症対応関連補助金の交付額は、総額で8億6,870万6千円となっております。

収益的収入における一般会計繰入金につきましては、前年度とほぼ同額の9億2,095万5千円で、全額、「基準内繰入金」となっております。これは、原則として、公営企業操出基準として地方財政計画に計上され、地方交付税の基準財政需要額への算入、又は特別交付税を通じて財源措置が行われているものであります。

資料記載のA欄収益総計は、57億3,080万1千円、前年度対比では、2億9,265万7千円の減となりました。

次に、費用について説明いたします。⑨給与費は、予定していた医師の人員を確保できなかったことにより、当初予算より3億8,473万7千円減の33億7,749万5千円となりました。

なお、医業収益に対する給与費の占める割合である人件費比率は86.5%であり、昨年度と比較し4.1ポイント悪化しています。

⑩材料費は、医療用薬品や診療用具等で、当初予算より2億150万3千円の減となり、医業収益に対する材料費の占める割合である材料費比率は、18.5%であります。

⑪経費は、光熱水費・委託料などの費用であり、予算対比6,800万7千円の減となりました。

B欄費用総計で、52億9,200万3千円、予算と比較して5億8,911万6千円の減となりました。

C欄差引収支では、4億3,879万8千円の純利益の計上となりました。

表下段の、現金収支を表すG欄内部留保資金は、20億5,271万6千円となり、当面の運転資金としては、確保できた結果となっております。

以上で、八雲総合病院の令和4年度決算についての説明といたします。よろしくお願いたします。

○委員長（赤井睦美君） このことについて、質問・ご意見ありませんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） まず、コロナのクラスターが発生したことによって、本当に大変な思いをしているなって見ていて感じていました。本当にお疲れ様でした。

質問ですけど、この医薬品というか材料費で、診療とかですよ。それで現金勘定のところの貯蔵品は、医薬品ではなくて何なのか教えていただけたらと思います。まずそれ一点です。流動資産のところ。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。

○委員長（赤井睦美君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 材料費というお話がありましたが、この貯蔵品については、当然材料費も含まれますが、主には薬品が占められているということをお願いいたします。

○委員（倉地清子君） はい。

- 委員長（赤井睦美君） 倉地委員。
- 委員（倉地清子君） もう一つ、流動負債のところの、ウの引当金は何のためのものなのか教えてもらっていいですか。
- 総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。
- 委員長（赤井睦美君） 総合病院庶務課長。
- 総合病院庶務課長（長谷川信義君） 流動負債の引当金のお話かと思いますが、多くは退職手当を支給するための引当金、それと賞与や、それに関わる法定福利費、これらを引き当てた額になります。
- 委員（倉地清子君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 倉地委員。
- 委員（倉地清子君） そうしますと、それに関連するか分からないけれども、今現在、医師住宅があるじゃないですか。その医師住宅の副委員長がいた住宅が、今空いていると思うんですが、それでなんだろう、今まで収益としてなんかあったんですかね、家賃というふうな言い方をしたらいいのか。その家賃に含まれてるんですか。
- 総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。
- 委員長（赤井睦美君） 総合病院庶務課長。
- 総合病院庶務課長（長谷川信義君） 家賃収入ですが、こちらの表でいくと医業外の収益として損益計算上はされているとなります。
- 委員（倉地清子君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 倉地委員。
- 委員（倉地清子君） 結局、その収益も今現在減っていくってこれから感じになるんですもんね。ということは、建てたというか、支払わなきゃならない額は、この病院会計から支払っていかなきゃいけないのか教えてください。質問が難しいですか。
- 総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。
- 委員長（赤井睦美君） 総合病院庶務課長。
- 総合病院庶務課長（長谷川信義君） 副委員長住宅の収入といいますか、それが入らなくなったことによる、病院の関係としてどうなるかというご質問かと思いますが、基本的には医師住宅については、公営企業債なりを借りての、借入れをして建物を建ててございますので、当然、償還等は発生しますが、料金収入、住宅の家賃収入については、入ってこない。入っている方がいないので、その収入自体が入ってこないなので、よろしく願いいたします。
- 委員（倉地清子君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 倉地委員。
- 委員（倉地清子君） わかりました。とりあえず私の質問はこれで終わります。
- 委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。
- 委員（関口正博君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 関口委員。
- 委員（関口正博君） 僕、先月コロナになって、熱が下がらなくて、どうしようもなくして総合病院に電話して、そしたら電話診察を進めていただいて。薬をいただきました。ありがとうございました。

ね、熱が下がらなかったから、何日か。そしたら電話診察を進めていただいて、電話診察して処方箋出して、薬は取りに行った。それで、この電話診察は凄いなって。医師の診察を電話で受けるということでも、十分心のケアがされるというのか、良いもんだなど。僕は普段あまり病院にかからないから、安心感を与えていただいたんですが、この処方箋と薬の受け取り、病院側からは、自分はコロナだったんだけど、今は5類になったので取りに来ていただいていいという対応になるんでしょうけれども、取りに行ったんです。

最近よく聞くのは、電子処方箋や薬の受け取りを、自宅に郵送してもらうとかって取り組みは全国的に見られると思いますが、今は総合病院においては、そこまでの対応はできていない、この先そういう対応ができる可能性があるのかどうかを、それができることによって、薬急ぐ方は別でしょうけれども、電子処方箋、薬の受け取りが自宅で全部完結するというのは、これからの医療にとって当然大切なことだと僕は思うんですが、その辺の取り組みはどうですか。これから進んでいくんでしょうか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 電話診察ですとか、わざわざ病院に来なくても、ということでのリスクと利便の両立を図っていく特例措置ということで、本年9月末まで、現在のところ電話診察が可能となっております。それ以降やるとしたら、施設基準をとって、いろんな先生方に研修を受けていただいた上で、色々備えていかなければならないということ、ハードルは上がると思っています。

質問の趣旨の電子処方箋に関しては、今のところ、当院としては時期を定めて導入する予定はございません。ただ、現在厚生労働省のほうでは、医療のDXを進めていくということを柱にしています。これは厚生労働省だけの動きではなくて、いわゆる政府が毎年定めます、骨太の方針にもこういったDXを、とりわけ医療分野でDXを進めていくというのが、増々具体的に盛り込まれてくると思います。

それでもう一つは、診療報酬制度にそういったものを対応させるための、インセンティブが今後創設されるんじゃないかなと考えております。

診療報酬は政策誘導ですので、DXを進めている、DXを現に行っている病院には、例えば初診料、再診料に通常の対面診察よりも上乘せをしますとか、そういったことが、今後ますますされてくるのかなと思っておりますので、そういった動向も見極めながら、当地域の患者さんにとって、それが利便があるのか、それと実施したときにランニングコストとインシヤルコストも当然ですが、費用対効果として、どれくらいメリットがあるのかということも見据えつつ、検討を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 先ほどの国保病院もそうなんだけれども、確かに収益もそうなんですけど、地域の方々に必要とされる病院となるための取り組み。どうしても僕らは、こういう決算を見て、赤字を改善してくれということにはなってくるんだろうけれども。病院としても当然、これから人も減っていく中で、やりくりは当然していかなきゃならないでしょうし、

そんな中でこういう医療DXを進めるといのは、生き残りをかけた部分の大事なことであらうかと思うんですね。ですので、そのような研究は当然進めていただきたいですし、それを医師に求めてもどうしようもない部分はあるだろうから、ある程度、事務方でいろんなことを検討しながらやっていくんでしょうけれども。どうか、そういうものを進めて、八雲の町の方々に必要とされる、今まで以上に検討を進めていただいてやっていただきたいというふうに僕は思います。

自分は、今回、改めてそういうかたちで病院と、患者として関わらせていただいて、電話診察がすごくいいものだと思感させていただきました。今後も期限があるのかもしれませんが、オンライン診療も含めて検討いただきたいなと思います。充実させていくようによろしく願いいたします。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 大変ありがとうございます。

我々も、こういった業績だけでは見えてこない、住民の皆さんへの利便の向上や、そういうところも常にアンテナを張っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

それと、一点訂正させていただきたいのですが、先ほど電話診療の現時点の期限、9月末とお答えしていましたが、7月末までの期限ということですので、訂正させていただきます。大変失礼いたしました。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（斎藤 實君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 患者数の関係なんですけれども、外来はそこそこ、落ちていないんですよね。入院のほうが去年よりも1万くらい落ちてるんですけども、意図的に抑えてるって数字なんですか、入院患者を。そうでもないんですか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 入院患者の減少については、当院でコントロールしてるということではなくて、実は手術に結びつく症例というのが、近年大幅に減ってきております。例えばですね、1日平均での患者数を見ますと、令和元年度、これコロナ前ですが、1日平均で54人入院が来ています。令和2年度、令和3年度でいくと1日平均でだいたい26から28人に減っているとなっております。一つはやはり人口の減少が進んでいるのかなというふうに思いますが、ただ、この3年間でこんなに医療需要といいますか、それがここまで減るのはどうなのかなというふうに、単純に人口減少ということだけではないのかなというふうに思っています。

もう一つ考えられるのは、コロナ禍において、新型コロナウイルス感染症にかかりたくない、そのリスクを抑えたいので病院にあまり来たくないということで、先ほども話題だった電話診療などを一生懸命取り入れました。そのことによって、ちょっと定期受診、電話診療で診療の質が大幅に落ちてるといことではありませんが、定期受診の頻度が下がっているということで、やはり患者さんご自身の健康に関する意識や、今まで病院に定期的にかか

っていることで、その疾病を見つけれたんですけど、あまり病院にかからなくなったんじゃないかというのは、全道の事務長会の中でも、正式な調査でもなんでもない、それぞれの事務長の印象ではありますが、病院にかからないことで、何か診療にあまり前向きじゃないような空気が生まれてるかもしれないというふうに、そこから入院も増やせない要因になっているのかなということです。いずれにしても、繰り返しになりますが、全く根拠も確証もないですが、そういった印象で各市町の事務長も話しておられました。

話は一番最初に戻って、手術に結びつく症例が少なくなってきました。整形外科も大分入院が減ってまいりました。令和元年度、平成30年度くらいは、冬になると整形の患者さんだけで一病棟埋まってしまう状況も得られておりました。ちょうど私も別な立場で病院に携わってたときは、平成30年度や29年度あたりは、もう1月から3月、4月くらいまで一病棟が満床になる。具体的には40床くらい整形の患者さんの入院で埋まってしまうって傾向も見られましたが、現在は残念ながらそういう状況にはなっていないというところでもあります。少し細かなお話し、整形の話ばかりで恐縮ですが、コロナ禍で外に出歩かないことで、転倒のリスクが減ったというのは、先生方はそういう想像といたしますか、予測はしています。冬でもある程度、日常生活の中で活発的に出歩けば、例えば凍っている路面で転倒したりで手を付く、尻餅をつくということで、特にご高齢の患者さんであれば圧迫骨折や、そういった骨折で入院される症例が多かったんですが、とにかくコロナにかかるリスクを下げたいということで、ほとんどの方は普段より外出を避ける。そのことで外傷性の骨折といたしますか、そういうことも減ったのも一つの要因かなというふうに考えてございます。ちょっと長くなり恐縮ですが以上です。

○委員（斎藤 實君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 外来の整形は令和4年度はどれくらいですか。令和3年度は約4万人くらいいるんだよね、それも下がっていますか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 令和4年度の整形外科の外来の患者数ですが、3万7千400名程度。ですから下がってはおります。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） さっき整形の入院患者が減ってるというふうに言っていました、簡単に入院させないというのがあるんじゃないんですか。ほかの病院にかかってたから、そっちに行きなさいということですか。なんか矛盾している。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 入院の判断はですね、それぞれ医師に判断の権限がありますので、それぞれの症例によって、いろいろあるかもしれませんが、無理に断ってるということはないというふうに、私は思っております。患者さん側の思いと医療側の思いがミス

マッチすることはよくあります。不安だから入院したい、なにかちょっと普段と違うから心配だから入院したいということをもって入院の適用とするのは、私は違うんじゃないかと思えます。中にはそういう患者さんもいらっしゃるのですが、それぞれの先生の判断の中で入院にはならないですと、お断りするケースもございます。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） お医者さんが入院しても良いと言わないと、入院できないって背景があると思いますが、あとまたその土日にかかってしまって、救急で来て、次の日に来たら、じゃないや。とにかく私の知っている方は、転んで手を痛めて、我慢していたけれども傷みが取れないので、病院に入院して、もしかしたら入院するかもしれないと思って、入院の準備までして総合病院にいったんだけど、なんでこんな入院の準備なんてしてくるのって言われて、次の日には点滴用のベットには寝させていただいて、痛み止めも打っていただいて家に戻ったんだけど、結局痛いから函館の病院に行ったら手術したんです。そんなに函館の病院では長くは入院しなかったけれども、レントゲンも撮らなかったと。手術する症例だったんですよ。以前、事務長にもその話しをしたときには、やむを得なかったという話だったし、看護師さんたちも帰れなんて言ってないって言ってたけれども、本人は帰れ帰れ、とにかく帰れと言われて家に戻らなきゃなくなったと。タクシー代いっぱい使って、傷みも取れないまま、仕方ないからほかの病院に行って手術したんですよ、その人は。おかしくないですか、入院患者少ないって言って。させないから入院患者少ないんじゃないの。なんかそのときは、そういうものなんだなと思って引き下がったけれども、何か腑に落ちないですね。お医者さんの了解が得られなかったから、入院できなかったんです、ということであれば納得するけれども、何で手術しなければならないのに、人を帰したのかなと思えますけどね。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） ちょっとあまり個人が特定されない範囲でお答えしますが、私の聞いている情報では、もう既に治療のための病院は紹介されていたというのは聞いております。既にその病院が決まっていたのであれば、一般的にはそこで手術を受けられるのが筋だと思います。いろんな情報の中で、いったん手術するための、もしくは入院するための病院を紹介されていたけれども、いろんな事情で八雲総合病院って判断になる場合もございますし、それは一律、じゃあこういうケースだから入院は全て断らないというのは、私の立場では言えません。入院の適用を判断するのはあくまで医師でありますので。ただ、各医師に対しては、本年度の決算については幸いに利益が出ました。純利益が出ましたが、収支の構造を見ると収支悪化しています。財政構造上はこの近年4年間の中で一番悪い財政構造になっています。患者さんが少ないというのが一番のポイントであります。そのことで病院長と私の連名で入院を積極的に受け入れてください。ただ積極的に受け入れてくださいという言葉の裏には、入院をしなくてもいい症例まで全部取ってくださいということでは決してありません。医師が様々な学会や研修で受けてこられる、そういったレクチャーのなかには、国の医療費の問題やいろんな物を医師はレクチャーを受けています。医療費の

少し大きな話になりますが、医療費を国全体として抑えていくという考え方があって、ただローカルではそういった患者さん、住民の方々の不安の払しょくをしていかなきゃならないので、地域医療は特に佐藤委員がおっしゃったような、そういった住民の方に寄り添う姿勢も必要だと思います。その中で総合的に判断しますので、その入院の適用したことが、あるいはしなかったことが、良いのか悪いのかの判断は正直ちょっと、私の立場でもできませんし、あとこれ以上話をしても患者さん側の訴えと、私が職員から聞いている範囲として齟齬が生じるものというふうに思いますので、これ以上は私も踏み込みませんが、ただ一つご認識いただきたいのは、ハイヤーもなにもない時間帯に帰れって対応は間違いなくしていないというのは聞いております。その証として、内科の点滴室のベッドで薬剤を投与し、定期的に観察も行っているということも報告、看護の報告にもありますので、そこだけは信頼していただきたいなというふうに思っています。おざなりにして、その辺で勝手にしなさいということは決してしてごさいませんので、そこはご理解いただきたいと思います。以上です。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

なければみんな元気で病院に行かないのが一番いいと思いますが、でも、怪我したり病気になったら総合病院に行くって、選ばれる病院になってほしいと思います。よろしく願いいたします。

【八雲総合病院職員退室】

【請願者入室】

○委員長（赤井睦美君） 本当は住民生活課なんですけど 11時から請願書についての意見交換がありますので、それちょっと住民生活課をストップして、先に請願の方とお話をして、それから住民生活課の案件に入ります。よろしく願いいたします。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。お忙しい中。

この度、三澤議員の紹介で請願を受けました。文書ではもちろんいただいているんですが、ちょっとせつかくですから、ここで説明していただいて、大雑把にでもいいんですが。それで私たちから質問があったら質問して、もちろん請願は受け付けませんって結論にはなっていないので、より良い方向に行きたいと思っていますから、よろしく願いいたします。

○請願代表者（馬場直志君） 私、文化団体連合会の会長をやっております、馬場と申します。よろしく願いいたします。それでこちらが副会長の鈴木です。それから事務局をやっています半谷です。

私たちはですね、趣味の団体の集まりなんです。それで昭和29年の戦後まもなくなんですけど、そこから立ち上がった文化団体連合会です。その歴史、私もちょっと入って、この団体に入ってまだ5、6年なんですけど、話を聞くとところによると、29年に立ち上がった。その頃はまだ終戦間もなくって混乱の時期にまだいたのかと思いますけど、そのときに既に八雲町にこの会があったということですね。それでその頃というのは、とにかく生活するのも結構大変なんですけど、やっぱりそういう中で、生きがいのところで、いろんな趣味があるんで

すが、やろうということで立ち上がった団体の中で今に至っていると。それで、今だんだん世の中が変わって、少子化という問題もあるんですが、僕らはこうして好きな趣味を通して、仕事しながらでもそこに楽しみを見つけているということの表れなんです、そういう中で文化団体連合会を通して、主に文化祭というかたちのもので表現をしているんですが、一般のお客様にも見れるところを用意して、そのときによっては、八雲町のイベントなんかにも手助けできることがあったら、そういうのにも協力できるのかなという思いでやっています。

簡単にはこんな流れでこの団体はですね、芸能と、展示部門と分かれていまして、芸能はダンスや演奏で、そういうものを中心にしてるんですが、あと展示のほうは絵画とかそういうものですね、そういうものに分かれて、一緒になってる団体です。

○委員長（赤井睦美君） 文化ホールの建設については何か意見はありますか。

○請願代表者（馬場直志君） 文化ホールの建設についてもですね、今まで僕等こうしてやっていると、いろんなところに問題、古い建物というのもあるんですが、今まで建ってる町民センターとかシルバープラザも使わせてもらってるんですが、音響にしても、照明にしても、控室とかってところでも、なかなか使いにくい状況で、ずっとそういう中でやってるんですね、発表を。そうすると、いつも、私今こういう立場になっているものですから、いろんな使いにくいというところの意見が毎年出ます。他町村と比べるということではないんですが、八雲町くらいの規模の町であれば、こじんまりでもいいので、しっかりとした音響設備が整ってその他もろもろもですね、やっぱり他から呼ぶこともありますから、プロの方も呼ぶこともあるので、最低限それくらいのはこしらえてほしいというのが僕らの要望です。

○委員長（赤井睦美君） ではこちら側から質問がありましたら、積極的に質問し、よりよい方向で。ちょっとイレギュラーがあって、町長が建てちゃいますって発言をしたらしいんですが、出席していない人は、聞いていない議員が多いので、そこはちょっとなかったことにして、もし建てるとしてもどんな風なカタチが一番いいのかなというのをここで共有できたらいいなと思っています。皆さんのほうから質問、ご意見積極的にお願いします。

○委員（斎藤 實君） 委員会、先般紹介議員の三澤議員から説明があって、いろいろ質疑したんですが、そのときのお話では、プロの歌手やプロの演奏家を呼んでやることの施設が欲しいということではないんだっていうふうに聞いたんですが、そういう感覚でよろしいですか。

○請願代表者（馬場直志君） 基本的には私たち町民が使うところなので、私が今言ったプロの方というのは、そういう場面も時々あると思うんです、実際には。そういうときにも、やはり具体的には音響のことを考えても、そうとう雑音がでてきたりするのは問題があるなってところの話で出てきたことなただけけれども、基本的には私たちが使うのに、というところでは。

○委員（斎藤 實君） それで町内にもいろんな施設多くあるんですけども、先般ざっくばらんにいいまして、そういうところをですね、改修して音響施設として使えたら、いいところあるのかなって感じ、僕持ってたんだけれども。そういう施設の改修なんかはいかがなものなんでしょうか。

○請願代表者（馬場直志君） 現実的に施設の改修をして使うというのも一つの手だとは思いますが、ただ、やはりそれにしても、たとえば町民センターの場合はいずれ壊すって聞こえてるんですね。ですから、いずれ壊すにしても、とりあえずない間のこしらえるというところでは現実的にはそうなのかなって思っています。

○議長（千葉 隆君） 意味わからない。こしらえるというのは。

○請願代表者（馬場直志君） こしらえるというのは、とりあえず使えるような状況を作ります。そこにはお金がまたかかると。

○議長（千葉 隆君） 今の斎藤さんの、今議員さんのやつをちょっと補強すると、委員会のほうで、この間町民説明会の調査の話で、町長が発言したのはちょっとこれまでの経緯も含めて飛んでるなという感じで今話しになったので、防衛議員の人達ばかり何人かいるんだけど、これまでの八雲町の計画で、町民センターを防衛周辺整備事業で改修しますと、そのときには音響、照明、それから内部のアスベストの関係があつてちょっと断念した経過があるんですね。だからそのときには当然、音響と照明、それから内部の改修、当然その内部の改修のときに、今お話があつた控室の関係だとか、それからステージの出入りの関係を含めて整備すると。あと観客席のほうは要望があつたら今聞いてみたいなという部分で、可能性はあると思うんですよ。だからアスベストのほうの費用を町で出すとか、その辺、今後防衛のほうの周辺整備事業で陳情書新たに出すのか、出せるのかとかも含めて、やっぱり具体的な要望を言ってもらわないと。具体的に我々も動いたり、あるいは陳情していかなくやらないので、防衛施設のほうに。だからその辺、どこまで現状ね、財政運営する中でこの間もお話したように、議会のほうには49億4千万かかるといったのを、2ヶ月経ったって60億70億かかるっていつてるのか、だから20億違うんだわ、マックスで。だからそういうことを考えて、ほかの運営に、政策出てくる話も政策で言ってるから。ある程度、現実的な対応でやったほうが、即効性と中長期的な部分を考えたら、おそらく文化ホールを新たに作るようになったら、かなりスパンの時期がずれてくると思うんです。だって今庁舎建てます、あそこの敷地に何々建てますって言ってるわけだから、だからそのあととなると、10年15年先の話になっちゃうから、そんな遠い話を求めて文化ホールやっているのか、それとも現実的に期間を短縮して皆さんが役員のうちの実現できるようなことを目指しているのか、というのをまず聞きながら、具体的に音響、町民センターの、一番可能性があるから音響を直してください、照明を直してください、ステージ直してください、控室直してくださいって、全部できるかは別にしても、そういう具体例を出してもらったほうがきっと我々もまとめやすいし、今後、その中で、防議連で周辺整備をやるとしたらね、陳情も出しやすいし、過去にも実際改修で出したんだわ。そして、今アスベストの部分でちょっと取り下げて、中斷になった状況もあるので、それをまた同じものを出すというのはハードルがきっと高いと思うので、きちんとこの辺の環境を整備して出していかないと難しいんだわ、実際。だからその辺をやっぱり現実的、具体的なものを出してほしいなって。そのためのやり取りなので、どうなんですかね、その辺。

○請願者（鈴木馨君） まずですね、その町民センターとかシルバープラザに関して、今、現存で八雲町内で使える施設と言ったら、そういった催し物をするときに使えるのは、町民センターとシルバープラザってことなんですけど、町民センターも僕たちも良く使わせてい

ただいています。正直建物が建ってから30年経っていますし、設備に関しては相当老朽化していて、一時期音響のミキサーだけを変えているんですが、照明に関しては時代遅れになりまして、今LEDで電気代節約しなきゃいけないのに、あそこは電源を入れただけで200ボルトでガンガンたいてるので、1回のイベントだけで普通LEDなら10回分以上の電気代がかかってるんじゃないかというのが一つと、あとは、僕たちもあるもので何とかしようといういろんなもの、道具持って行って直したりとか、そういう状況で今まで使ったんですが、やっぱりいろんな文団連として、それまではそんなに大きな活動や目立った活動はしていなかったんですが、僕たちが入ったときに違和感があって、もう少し活気づいた文化活動をしたほうがいいのではないかとということで、5年間くらいの間、文化祭に関しては力を入れて、今までは町民センターと公民館でやっていたものを、たとえばシルバープラザで一緒にまとめてやってみました。そしたら入場者数は10倍くらいになりました。それくらい、町民の中で文化活動をきちんと行って、きちんと認知してもらえたら、お客さんも来てもらえるし、非常に喜んでもらえたりとか、一時でも習慣でも200人以上の人が入ったり、そういうかたちで開催することができました。それをやっている間に、今まで動かなかった部分が動き出したので、公民館の老朽化、町民センターの老朽化、シルバープラザの建てたときのホールの意向と、今使っている使い方とのギャップなどがありまして、そこはいろいろ工夫しないとそのまま使うことができないとか、逆に音響の面でいけば、先ほども言いましたが、たとえばそういった特別事業をやるときに、プロの方を呼んだときにどうしても業者さんを入れなきゃいけないとかいろいろありました。実際に僕たちが5年間くらい経験してみて、今の施設を、もしどこかのタイミングで新しいものを作っていたらのであれば、そのときの話だと、ゆくゆくは町民センターもシルバープラザもなくなるとなるので、それならそんなに大それたものではないけれども、多目的に使えて、なおかつ町民の方々がそこに募って、文化ホールは音楽ホールとちがって、普通に音楽をやるためのこういうホールじゃなくて、たとえばロビーとかにそういう文化団体の作品が飾ってあったり、八雲を象徴するものが飾ってあったり、そこにほかの町の来たときにも八雲の文化ってこういうものなんだってわかるような、そういう象徴的なかたちのものを。今、結局問題点は僕たちが感じていたのは、今管理する人がいないんですね、町民センターも管理する人がいない。今シルバープラザはまだ人がいるんですが、町民センターは管理するのに公民館さんのほうにいて、それで活動したい時間帯が使えない。夜とか日曜日とか。そういうのがあったりかなので、なるべくそういった部分の管理もきちんとできるかたちで、町民の人達が使いやすい、何かそういう施設があれば、将来的にそれができるときに、先ほども言いましたが、10、20年経つかも知れませんが、僕たちもその間に年取ってしまいますけど、次の世代の人達が使いやすいしてもらいたいということと、あと一次産業に興味のある若い人達が増えてると思うんです。そういう人達が、農業高校の子たちがいっぱい都会からも通っています。そういう子たちが将来的に農業をやりたいということで、八雲に来たりとか、漁業をやりたいときたときに、そういう子たちが次に住みやすい町、ただ仕事だけではなくてそういったものも楽しめる町が最終的にできてほしいなと思ひまして。僕たちはそういうかたち、是非今回は本当に役場のほうもすごく立派な建物が建ってるということで、統一感を持たせて、何かそういったかたちで、ほかの町もいろんな工夫をしているので、是非八雲も、い

ろんなそういったところでいいところあればいいなって、そういう願いを込めて僕たちはそういったかたちでお願いが。こういうタイミングじゃないとできないので、今すぐという話ではありませんが、構想としてこういうのがあればいいなということで、お願いしたいということです。

○委員長（赤井睦美君） 議員の皆さん、フリーでお話してください。

○委員（黒島竹満君） いろいろ説明聞いたんですけども、新しいものを作るとなったら、おそらく議長が言ったように相当時間がかかります。だから、今シルバープラザと町民センターと、何年かいろいろやってきて、音の反響だとか使いやすい音の出る、シルバープラザと町民センターとどっちがやっぱり。

○請願者（鈴木馨君） 僕的に言うと、広さ的に駐車場や、ちょっと町民の皆さんのアクセスというのは、僕たちも文化祭で今まで町民センターと公民館で行ってきたものをシルバープラザとしたときに、町民からは遠いって意見はあったんですが、駐車場の面と部屋数が多いわけですから、たとえば控室をきちんと取れたりとか、そういったものから言うと、音響ももちろんそうですが、あそこ広いので。ただ広さはあるんですが、音響設備が講演会用にしかなくてないので、照明がまず町民センターにあるような照明がないということと、あとは音響に関しても、そういった講演用の音響しかないので、そこを改善すればいいと思うので。

あとは公民館がそっちに移るんですけども、部屋数が足りない部分とかを、シルバープラザの建物とかを使わせてもらえたら部屋数は結構あるので、そういった活動にも今また有効活用できるかなと思います。今改装するなら町民センターももちろんですが、今後ろのほうも駐車場のほうにあるみたいなふうにはお聞きしていたんですが、町民センターだと部屋数が少ないのと、設備的な部分でいうと、広さがやっぱり、シルバープラザほどではないので、ちょっと人が入ると音が吸収されちゃう部分もあるので、音響的な部分でいったり、使いやすさから言うと、シルバープラザのほうは僕は使いやすいと感じていました。

○委員（黒島竹満君） そしたら、今のところはシルバープラザを改装して、できるだけ早く作ってほしいなっていう希望。

○請願者（鈴木馨君） 僕が最初に考えたのは、ホールって大掛かりになりますし、それはすごくいろいろな部分でお金も必要ですし、いろんな部分がすごく必要だということも、もちろんわかってるんですが、それに代わるものとして、たとえば今、前回の状態で町長とお話する機会があって、そういう話をしたときに、ホールのこととかはあまり考えてなかったって話があったので、将来的には町民センターのほうも建物自体が古いので、なくなる。シルバーもゆくゆくはなくなるとなったときに、じゃあどこでやればいいんですかって話になって、それで文化ホールみたいなのが欲しいと。もしそれが駄目ならシルバープラザの、これは僕の意見ですが、シルバープラザのホールの部分、建物の部分はすごくいろいろ使いやすいのでそのままにして、例えばホールの部分だけを改装して、それで後ろの、ステージ周りって裏行ったりできて、そういうところが全くない。そういうところを改装して、例えばちょっと使いやすくしたりとか、照明をつけていただいたり、あと音響が一番ベーシックなもので構わないんですが。本当であればステージは今●●なんですけど、そこが客席になったらいいかなというのと。あと江差なんかは客席が出たり入ったりしてフラットにしたり、そ

ういうものも、僕たちはこれからいろんなところに行って、建物とかは勉強しに行こうと思うんですが、そういったものと、あとはいろんな団体さんが今やっているんですが、公民館とか。たとえば、そういったものでそこで使うものを置いておく場所とかがどうしても少ないので、倉庫みたいな、僕たちは楽器やっていますが、楽器の大きなものだけ置いて置ける場所とか、そういう何か文化祭のときにしか使わないパネルだとかも不足していたりして

るんですが、そういったものが文化祭のときとかすぐ出し入れがしやすいって意味ではシルバープラザが一番今のところ町民センターでやるより現実的じゃないかなと思います。
○委員（黒島竹満君） 造りからいえばさ、町民センターの天井だとかはそういう造りになってるから、やっぱり音楽だとかそういうのをやるにはそっちのほうがふさわしいのかなと思ってたんだけど。そして、今言う両サイドから入れるというのは、両サイドに廊下があるから、あそこを少し改造したら両サイドから入れるようにもなるし、俺はシルバープラザより町民センターのほうが相応しいのかなとは思っていたんですが、改装するのも楽だと思うし。ただアスベストあるから、そのアスベストの除去でどれくらいかかるのかあれだけども。

○請願者（鈴木馨君） 天井の高さはすごくね。

○委員（黒島竹満君） あれに正座式の客席作ったら、今渡島信金の本店に正座式の座席があってそれがバーッと出てくる。それを引っ込めたら壁になるから、正座式のにすればいいんじゃないかなって。

○請願代表者（馬場直志君） 町民センターの場合は間口も決まっているので、左側に会議室みたいなものがあるんですが、やっぱりダンスをやる人は着替えとかして出てくる。そしてらそういう控室が町民センターの場合は難点なんですね。

○請願者（鈴木馨君） 今シルバープラザだと広さ自体十分あるので、例えばその中に例えばそのホール自体を狭くしてもさっき言った座席やちょっとした控室を作っても使えるのかなという部分があるのと、どうしても、町民センターも良いところはもちろんいっぱいありますが、今その中でやって、また新しくしていくとしても、使い勝手としては変わらないかなと。使い勝手として工夫できるのは、空間があって、いろいろ変えられるものというふうに考えたらシルバープラザのほうがいいかなと。シルバープラザはちょっとホールが箱型なので、音響が跳ね返るといふ現状がありますが、例えばそれは後ろのほうにカーテンだけで解決できたり、そういった簡単なやり方で音響を変えたりすることも可能なので、なるべくそういった部分では、ローコストで考えるなら、今例えば町民センターにある照明だとかを全部外してというより、たとえばそこをLEDならスパッと変えたりするなら、今残っているものが邪魔になったりする場合もあるので、そういう部分ではやりやすさとしてはシルバープラザとかのほうがシンプルにできるんじゃないかなと思うのと、あとは後ろ周りが町民センターの場合は電源室になっていて、そこが使えないので、そこは絶対改修するのは不可能だから、それを考えたらシルバープラザの後ろのほうでまだ少し余裕があるのと、横のホールの脇のところは普通に敷地があるので、そういった面では今の現状の駐車場のスペースだとかは変えずに色々できるかなというのと、あとホールの脇から搬入口があるんですが、その道路がすごく狭いので、そういうところも直せたらもうちょっとスムーズに使えるし、実際に僕たちもシルバープラザで文化祭をやったときにはすごくお客さん

にも喜ばれましたし、また、一旦去年、公民館に戻したんですが、やったときには、やっぱり部屋の老朽化でどうしても日の入り方が違ったり、明るさが違ったり、暗かったりとかかってして、どうしても地味目になっちゃう部分があるんですが、シルバープラザでやったときには割と結構イメージ的に統一できて明るいイメージでできたかなって印象があります。

○委員（黒島竹満君） そしたらやっぱりシルバープラザが一番相応しいというか。

○請願者（鈴木馨君） 使う方としてだと、僕はやっぱりいろんな団体さんの意見を聞いたときにはシルバープラザでやったほうが、そういった部屋数が多いから。町民センターは2つの部屋をとっかえひっかえ、入れ替え入れ替えで使ってるから、やっぱりそういう面では部屋があったほうがいいし、たとえばそういった文化活動の拠点をシルバープラザに、例えば今公民館でやっているものを、新しい公民館でももちろんやりますが、その足りない部分をシルバープラザでやらせていただけたら、部屋も十分な数がありますし、もしくはそこで活動しているものをそのまま文化祭をやるというふうにも、そこからすぐ掲示ができるという部分では、今現存のものを使う部分では、僕はそっちのほうがいいかなと感じています。

○委員（黒島竹満君） わかりました。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地さん。

○委員（倉地清子君） 今話を聞いていて、安心したっていうか、町民センターかシルバープラザかって、今いろいろ話を聞かせてもらって、お客様とかを呼んで活動もしたいしということでもんね。となると、広い範囲で見たら、結構、私町民センターに携わる機会があるので経験あるんですが、冷暖房とか結構。だとお客さんを招いたときに、そこもきちんとしないとなど思ったり、あとシルバープラザにあってないものといったら、あるけれども昔のトイレというか、車いすのトイレがカーテンなんです。そういう部分を全部改修していかないとならないのかなと思っていたから、明るさもそうだし、設備に関してもシルバープラザがいいなって私ずっと思っていたので。

○請願者（鈴木馨君） 空調に関してなんですが、前に一度、僕たちもイベントで携わった中で、プロの方に来ていただいたんですけど、夏だったんですね。夜のステージだったんですが、照明が古いので、本当に熱が出るやつだったんですが、冷房がないので換気のためのやつを入れたら音がすごくて。バイオリンとピアノだけだったので、マイクも立てないでやりますと言っていたので、それを止めたんです。そしたらピアノの方が熱中症になってしまって、それで最初に出たステージから途中から駄目になって、それからバイオリンの人、一人で演奏するというハプニングがあったこともあるので、そのときに僕も二階の部屋にいたんですが、やっぱり相当危険な感じがしたので、そういう面では、町民センターの方で考えるとしたら、そこは考えていかないとならないのかなと思いますし、人が集うところなので、広さ的にコロナも大分落ち着きましたが、どういったかたちになるか分からないときに、今座席ですとかも1m離したりとかって部分で考えたら、町民センターも入る数が少ない。シルバープラザでやった場合は、十分な数が割と入ることができたということもあるので、そういった面でも、まだシルバープラザのほうが新しいので部屋とかそういった部分で老朽化している部分はそんなにないかなと思いますので、もしどれくらいの期間それを使

うかは分かりませんが、そういった部分でそういった機能を使うなら、使う方としては、僕はその方がいいかなと思います。

○委員長（赤井睦美君） あとはお聞きしたいことはありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 僕は最初から聞いていて、町民センターの改修は現実的ではないなと思っていました。古すぎです。それで一方で、シルバープラザの有効活用、これ庁舎も4年後5年後には建つのかな。そうなったときには庁舎のほうに子ども支援センターができるので、保健福祉課もそちらに移るとなったときに、あの大きい建物どうするんだろうってなるので、施設整備の考え方として、そこを有効活用することが、僕は一番現実的だと思いますし、議長も副議長もいっているように、新規の建物を建てるというのは、なかなか当然時間もかかりますし、現実的ではない。町長はあんな言い方していたけれども。と思うので、僕は町内の施設の在り方を考えたときには、シルバープラザを改修して、それで音響だとか照明だとかっていうのは極端な話、そんなに難しいことではないですよ、全然ハードルは高くないですよ。僕は逆に、シルバープラザの講堂が、その時代ではそれが有効性があったのかもしれないけれども、何であんなかたちであるんだろうって僕は不思議に思っている。必要性が正直あまりない。もっと有効活用するときには、やはりそういうホールのなものや、あの区画なら結構立派なものが、半分だけで考えてもできますよね。そういうものをきちんと精査しながらやっていったほうがいいんじゃないかというのと、あと一点は、皆さんは吹奏楽を中心にいろんな活動をしているんでしょうが、普段練習する場、はぴあではよく吹奏楽の練習をしているのをよく聞きますが、この練習する場の確保って、きっと田舎だったらすごく大変なんだろうなって。そういうものの整備も含めて、俺シルバープラザの中に全部納められる気がするんです。僕は無駄なスペースがたくさんある気がしています。それでこれからの町の施設整備の在り方の考え方、庁舎に統合されるものを含めて、是非積極的にそういう提案をしていただきたいなと思いますし、今この場でもそういう流れになってるでしょうから、それが一番早いのかなと思いますし、どれくらいお金がかかるかの精査もありますが、町民の皆さんに喜ばれるような有効活用できるような方法を、一緒に考えていけたらなと思います。

○請願者（鈴木馨君） 今のご意見、本当にありがとうございます。文化ホールはゼロから作るというのは難しいですし、将来的に考えるというのはもちろんですが、今言っていたきましたが、例えば、シルバープラザのホールの部分だけをすぼんって改装して、それを一つにして文化ホールってかたちに僕はできるんじゃないかって、ちょっと最初考えたんですね。だから、せっかく使い道がなくなるなら、ホールの部分だけ使いやすくしたら、あとは部屋割とかは十分な部屋がありますし、そういった部分を使わせていただけるなら、そこ自体を文化ホールとして改装するなら、名前を八雲町文化ホールにできるんじゃないかと思いますし。ゆくゆくはそれがまた老朽化したときには、次にまたステップとして新しいもの、それで反省点や使い勝手が良かった部分がまた出てくると思うので、そういった部分で、またやっぱり考えるのにも時間がかかりますし、現実になるまで結構時間がかかりますし、遠軽町とかでも立派なステージでホールを作りましたが、あれもやっぱり20年30年経っ

てやっどできましたし、そういうものもありますが、例えば僕たちも今の段階でそういったことを将来的に考えつつ、今あるものを使いつつ、それをなるべく並行して最終的にこっちが駄目なときにこっちにするってかたちで話を進めて行けたらいいかなと僕は思っています。

○請願代表者（馬場直志君） 僕らとしては今、鈴木君も言ったんだけど、現実的なことは考えています。なので新しい建物ということではないんですよ。必ず年数かかると思われますから、そういうふうになったらまたその世代が変わっていくので、僕らはその辺も考えながらその団体を進めて行かないとならないと思いますから、ですから現実的には改修してってところが現実だろうって話はしていました。

○委員長（赤井睦美君） よろしいですか。

○委員（斎藤 實君） よろしいです。

○委員長（赤井睦美君） では改修して使いやすい、できれば少しでも早くやってもらわないと、じっくり待ってるなら新しく建てるのと何も変わらない。

○請願者（馬場直志君） ただいろんな世代の方が入っていますから、シルバーさんで3回くらいやったのかな。あそこで展示のほうも全部まとめてやったんですが、その、今現在もそうですが、展示のやられている方というのは、結構高齢の方、それで高齢の方がやったあとの反省会で出ていたのが、距離があると。あそこまで行くのが大変だって、これは高齢者の意見ですね、が結構そこは言われました。ただ、あと若い人もこれからということも考えたら、どれを取るかって話かと思うんですが。そういう話は出ています。

○委員長（赤井睦美君） 庁舎もあっちに行っちゃうし、遠いでいったら、これから交通の便を考えたらその時にお手伝いしますって仕組みがあったら、それは全然大丈夫だと思うんですよ。だから距離は問題ないんじゃないかと。あと私が一番いいと思うのは、高校生が練習に行くじゃないですか、高校から近いので。だからそれは便利だなと思っています。

是非、皆さん、じゃあ請願は一応シルバーを改修してつくるって方向で提出するってことでよろしいですか。

○請願者（鈴木馨君） 将来的にはこの話もね、これそれに代わったから、これがなくなるではなくて、並行してやっぱりゆくゆくはきちんとしたものを作りましょうって。そのときには僕たちの世代ではないかもしれませんが、今話しをしておかないと、そこから30年、そこから20年ってかかるので、そこは先に進めないと、次の世代の人たちがやりやすいようにしていただきたいと思うので、今使う、僕たちが使う部分はそういう部分でも全然できる限りのことでやれば僕はいいと思いますし、ただ将来的に次の世代がいたときに、やっぱりせつかく新しい庁舎もできていますし、統一した何かがあれば次の世代でいろいろ活用していただけるんじゃないかということをお願いながら、今やっぱり僕たちはこういうものを提起しておかないと、どんどん先に先にで、話始めてから何年になるので、それはやっぱり並行していろんな方向で新しいものを建てるって構想もきちんと考えないとないという部分もあるので、これはこれで僕たちはお願いしたいなという部分もあります。

○委員長（赤井睦美君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） 以上で、今日はお忙しいところありがとうございました。

【請願者退室】

○委員（斎藤 實君） そしたら委員長、委員会として先ほどいるうちに言いましたが、委員会として最終結論きちんとまとめてください。

○委員長（赤井睦美君） ごめんなさいね、全然無知で。黒島さん先ほど議長から出た防衛修理整備補助金ってあれって町民センターしか使えないんですか。それともシルバーでもありますか。

○委員外議員（三澤公雄君） 総合体育館にも防衛予算ってついてなかった。

○委員長（赤井睦美君） じゃあ使えないことは、シルバーだから駄目はないんですね。

○委員（黒島竹満君） とりあえずどっちにしても出さないと。出してみないと分からないから。

○委員（大久保建一君） 使えるんだべか。周辺整備だから基地の周辺で何かしらこじつけないとダメなんじゃないの。そこがどうなのか分からないけれども。

（何か言う声あり）

○議長（千葉 隆君） 一回調べてから。あっちのシルバー使うときには、その前にシルバーの活用方法を原課で議論してもらわないと。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） どうせ建てるからシルバーは使わないって発想。

○委員（黒島竹満君） 防衛予算使わないっていうかもしれないし。

○委員（斎藤 實君） それはあとにしてでも委員会としてどうするのかを。あとは補助金何を使うかは。

○議長（千葉 隆君） だから委員会として、ただ文化ホールを使えって切り口ではなくて、あそこのシルバーをどうやって、今後有効活用するのかって少し議論して、そしてこっちの方も要望があるとかさ、なんか言ったら、文化団体で物も置かせてくれって言ったから。

○委員（大久保建一君） だから実際にどれくらいのスペースと、どれくらいの部屋数を求めているのか、だけでも今現在、新庁舎ができるまで子育て関連の施設も使うかもしれないから。

○委員長（赤井睦美君） すみません、今ね、住民生活課が待ってるから、先に住民生活課から報告をいただいてそれから戻したいと思います。

【住民生活課職員入室】

○委員長（赤井睦美君） ではお待たせしました、住民生活課よりご報告よろしくお願いたします。

○住民生活課長（石黒陽子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 住民生活課長。

○住民生活課長（石黒陽子君） それでは、住民生活課のほうから、令和4年度生活応援商品券発行事業の事業実績について、担当のほうから報告させていただきますのでよろしくお願いたします。

○住民生活課長補佐（武田利恵君） 委員長、住民生活課長補佐。

○委員長（赤井睦美君） 課長補佐。

○住民生活課長補佐（武田利恵君） それでは令和4年度に実施いたしました、生活応援商品券発行事業の事業実績についてご説明いたします。お手元の資料をご覧ください。

まず、事業概要でございますが、（1）主旨といたしましては、新型コロナウイルス感染症拡大の長期化及び原油価格・物価高騰の影響を受けている町民に対し、緊急的な措置として商品券を配布することにより、家計への影響を緩和するということです。

（2）対象者は、令和4年11月1日時点で八雲町に住民票登録のある全町民1万5,090人。金額は1人につき1万5千円。事業期間は令和4年9月から令和5年3月でございます。

2事業実績でございますが、配布枚数は全体で22万6,350枚、そのうち利用枚数は22万3,910枚、金額にいたしますと2億2,319万円、利用率は98.6%ございました。

事業費全体では2億3,236万7千円で、財源といたしまして、道の市町村高齢者世帯等生活支援事業費補助金1,221万円及び国からの新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金1億6,505万4千円を活用しております。

事業効果としましては、特に支出が増嵩する年末年始に使用できるように商品券を配布したことにより、家計への影響を緩和することができ、また取扱店を大型店やコンビニを含む町内の事業所としたことにより、利用がしやすく、より一層町内での消費拡大に繋げることができたものと考えております。

最後に、参考といたしまして、業種別利用状況を載せてございますので、ご覧いただければと思います。

生活応援商品券発行事業の事業実績については以上となります。よろしくお願いたします。

○委員長（赤井睦美君） このことについて質問、ご意見ありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） お待たせしたのにすみません、ありがとうございました。以上で報告事項といたします。

【住民生活課職員退室】

○委員長（赤井睦美君） 先ほどのお話に戻ってもいいですか。先ほどの請願は文化ホールを建てるって請願ですよね。建てることを検討する請願ですよね、町長は建てるって言ってしまったけど、この調子で行くと、建ったとしても全然、庁舎建ってからさらに後になるので、今の内に使えるものは使いたいということでシルバープラザの意見が出てきたんですが、委員会としてはどんな提案の仕方をしていいんでしょうか。

○議長（千葉 隆君） まず採択するかしないかを決めるんでしょ。

○議会事務局長（三澤 聡君） 採択すべきなのかを。結論として出していただいて、そして委員会としての付帯意見ではないですが。

○委員長（赤井睦美君） 建てることを検討してほしいって請願書だから、その検討することには皆さん賛成ですか。それさえも駄目なのは駄目なんですか。ただし長期的に考えて本

当に10年後とかでもいいというなら、町長がおっしゃるとおり建ててもらっても、せっかくだから、今使えるところをいかして、なるべく早めに使えたほうがいいんじゃないのってことで、シルバープラザっていうのが出たんですが、だからまず採択はするということがよろしいですか。そこで付帯意見って名前かどうかわからないけれども、委員会の意見としては話し合った結果、新しいところができるかできないかを別としても、シルバーを改修しながらできるだけ早く活用していくということよろしいですかね。

○委員（斎藤 實君） 考え方としてはね。

○委員（佐藤智子君） 調査したらどうですか、そういう方向で。

○委員（斎藤 實君） だから問題はさ、改修することはいいんだけど、そしてその委員会としてさ、シルバープラザの将来がどうだとかってところまで踏み込めないんじゃないのかな。ただ文書の中に活用の仕方をどうしたらいいのか、その辺のところは検討というのかね。

○委員長（赤井睦美君） そうですね、町として今後どう活用を考えていくのかというところは。

○委員（斎藤 實君） 一方的にこうだと言えないから。

○委員（大久保建一君） 既存施設の利活用も含めて、文化ホールの設置を求める感じじゃないですか。

○委員長（赤井睦美君） 委員会の意見として。

○委員（大久保建一君） うん、新規建設するのか既存施設にするのかは別として、既存施設の利用も含め早急に考えるべきかみたいな。

○委員長（赤井睦美君） それも付けて。

○委員（黒島竹満君） それと会場資金の関係もあるから、どうしてもシルバーだけっていったら難しい部分も出てくるかもしれないから、希望してるのはシルバーだけでも町民センターもということ。

○委員長（赤井睦美君） なるべく町費だけではなくて補助金を。

○委員（黒島竹満君） どっちになってもさ。

○委員（関口正博君） 防衛予算が有効に使えるなら新築のほうも安くなる可能性もないわけでもないから。長い目で見たら。その起債がたとえば半分補助とか7割補助、全額補助かその辺は分からないけれども、この防衛予算が丸っとどういう有効的なものか分からないけれども、それも検討というか、聞いてみる価値はあるんじゃないですかね。古い建物建てるってことはそれだけ。

○委員（黒島竹満君） 防衛は7割。

○委員（関口正博君） プラス何債かを使えたらもしかしたら100%補助で切る可能性もあるんじゃないの。

○委員（大久保建一君） 100%はないだろうけれども。

○議長（千葉 隆君） 補助金だから、返さなくていいお金だから、残りの3割だから絶対に防衛補助使ったほうがいい。

○委員（黒島竹満君） 防衛かウタリ。ウタリも70%。

○委員（斎藤 實君） ウタリのほうが早いんじゃないの。

○議長（千葉 隆君） ウタリの使うならウタリの文化を入れないとつかない。

（何か言う声あり）

○議長（千葉 隆君） 一つじゃなくて。ただその事業が入りますっていうための。詩集やってるからでは弱い。もうあそこで使ってるから、東部児童館で。

○委員（黒島竹満君） けどアイヌ事業は。

○委員長（赤井睦美君） そういう例えばって名前を出して要するに補助金を有効活用してほしいということ。

○委員外議員（三澤公雄君） 議会だから、財源のこと必ずくっつけて言うほうがいいのかになって思います。

○委員（関口正博君） ただ現実的に、今こうやってきてるけれども、将来的に当然、団体自体も先細りしていくのは間違いなくて、だから今現実のことだけを鵜呑みにするよりは、ちゃんと将来、だったら文化団体に一団体一団体に補助を大きくしてどこか好きなどころ借りてくださいよのほうが、冷たい言い方かもしれないけれども、そのくらいの勢いで言うてくると思います。

○委員長（赤井睦美君） 今の状況だと借りれる場所がない。

○委員（関口正博君） たとえばこの間も言ったけれども、楽器系のものなら長万部のホールが使えるとなったときには、たとえば町が積極的に出しますとか。

○議長（千葉 隆君） どっちみちあそこのシルバーの活用方法をちゃんと考えないと、事務室も空くし、それから使ってないお風呂があるから、男女の風呂があるんだから、そこだって改修しないとない。もう十何年使ってないんだもん。だからそういった部分であそこを壊すのか使うのかって言ったときに、使うってなるんじゃないのかなと思うんだよね。そしたら使うんだったら、今の事務室も含めてどういう活用方法するのかって言って、その中に文化ホール、構想も入れてあげたり、備品を入れたり、それから文団連ってところだけでも、いろいろな団体があるわけだから、その事務局にするとかさ。それから出ていた、あのときも出てたつけさ、本庁舎に入ってなかったやつ。公民館に事務局持っているところが入ってない団体があったみたいだからさ、だから何となく今のままじゃ庁舎つくったときに空きますとか、使われてないってところも、どうやって活用するかというのが課題に残ってるんだわ。

○委員（黒島竹満君） どっちにしてもシルバーはまだ30年経ってない。まだ起債だとか残ってるから壊すわけにはいかないと思う。だから必ず再利用していかないとない。シルバープラザ。こっちは、町民センターはもうそれこそ終わってるはずだから、壊してもRCだけど、こっちはRCだからRCの建物って確か60年かな。

○委員（関口正博君） 町民センターは古すぎて改修するにしても、起債が使えないってちらっと聞いたことがある気がする。ただシルバー使うにしても庁舎、合併するといっても令和10年に向けて整備、庁舎ですよ。だからまだ5年、あそこの施設には保健福祉課が残っていくわけで、それ関係のことも、あの中では行われていくってことでしょ。

○委員長（赤井睦美君） それでホールだけをそういうふうにはできないかなって。

○委員（斎藤 實君） だからそれでもいいんじゃないの。

○委員（能登谷正人君） だからホールだけでいいって、各部屋いっぱいあるから、ホールと音響だけその関係者の人たちが。

○議長（千葉 隆君） ステージってかなりお金がかかる。あの人達が言ってるステージは、あそこ全部壊すならかなりかかる。

（何か言う声あり）

○委員（能登谷正人君） 江差のとか北斗市みたいなのは、あれは無理。

○委員長（赤井睦美君） 江差、立派なんですか。

○委員外議員（三澤公雄君） だって全国から来る人達向けだから。

（何か言う声あり）

○委員（関口正博君） でもこの間の、森の信金のホールも立派だった。八雲の信金でも作ってくれないかな。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） じゃあとりあえずホールだけでもって感じで。

○議長（千葉 隆君） とりあえずあれじゃないの、照明と音響だけ。

○委員（能登谷正人君） とりあえずそれで我慢してもらったらいいいんだ。

○委員（佐藤智子君） とにかく今のシルバー音響悪すぎるもん。

○委員（能登谷正人君） 音切れちゃう。

（何か言う声あり）

○議長（千葉 隆君） 駄目だ、天井直さないよ。

（何か言う声あり）

○委員（倉地清子君） カーテンしたら大丈夫って言ってましたよね。

○委員長（赤井睦美君） 駄目じゃない。

○議会事務局長（三澤 聡君） それで一回作ります。

○委員長（赤井睦美君） そういう感じでよろしいですか、じゃあ。まずはホールの改修。一番早く使うためには、ホールだけ改修。それ以外は何年もかかる。より良いものと言ったら時間がかかるから、とりあえず使えるものを考えていきたいと思います。

○委員（能登谷正人君） とりあえずホールだけ改修して、その改修の中には音響だとか反響しないようなだとか、そういうような、いろんな何点か網羅してそれで勘弁してもらおう。

○委員外議員（三澤公雄君） シルバーは冷房あるの。

○委員長（赤井睦美君） ある。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） じゃあそういうことで、文書はあとで局長と一緒に作らせてもらいます。

次に協議事項で常任委員会の視察研修についてですが、8月28日、29日、月曜日か火曜日ですが、長沼の学びの里小学校と、次の日、安平町の安平町立義務教育学校の早来学園、これ義務教育学校で1年生から9年生までで、そこ両方視察させていただきたいと思っています。それで出発時間が非常に早いのですが、八雲町役場を朝6時15分に出発しないと、まおいの学びの里が10時から視察開始なので、時間が相手に決められているので、その時間に合わせると6時15分に出発。それで終わったあとは長沼町が子育て支援が充実してい

るので、そういうのを子育て支援ブックみたいなのを見せていただきながらちょっとお話を聞けるようにして、そのあとは朝早かったから少し早めにお休みしたらどうかなって。

あと道の駅が町の中心を担って、すごく一生懸命やってるんですね、観光も含めて。だからそこも、ちょっと文厚のあれではないですが、自由時間に自由行動で見たいと思っています。それで早めにお休みして、次の日は早来学園を見て、そこにもまた、一生懸命安平をPRするものがあるんです。そこもちょっと自由時間に。自由時間で自由行動していただいて帰ってきたいと思っています。朝早いんですが、皆さん大変申し訳ありませんが、是非よろしくをお願いします。

○議会事務局長（三澤 聡君） できれば出欠をここで。

○委員長（赤井睦美君） 参加できない人。

（出欠確認）

○委員長（赤井睦美君） 能登谷さん以外は大丈夫です。

じゃあそういうことですので、よろしく願いいたします。子育て支援についてはもう一回詳しく調べてやっていただきたいと思います。

あと事務局からなにかありませんか。次回の。

○議会事務局長（三澤 聡君） 次回は7月20日ですね。

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。

皆さんからなにかありませんか。なければこれで終わりたいと思います。

○議会事務局長（三澤 聡君） そしたら7月のときに研修の行先に対する事前の質問事項をちょっと整理しておきたいと思います。

○委員長（赤井睦美君） じゃあこれで終わります。

それでは遅くまですみません、ありがとうございました。お疲れ様でした。

[閉会 午後12時04分]